

経営発達支援計画
令和8年度伴走型小規模事業者支援推進事業

地域経済動向調査 Report

～京丹後市版～

(令和8年1月～令和8年3月)

京丹後市商工会

＜調査概要＞

【調査対象】地域内の小規模事業者等100件

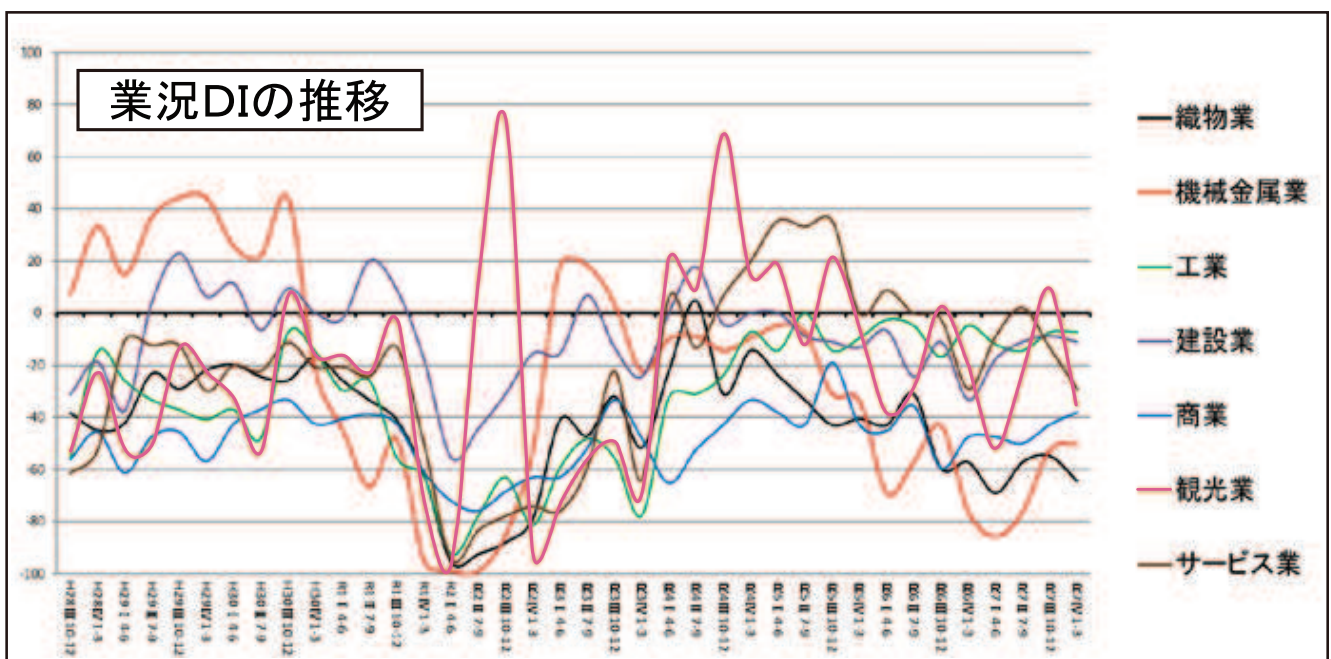
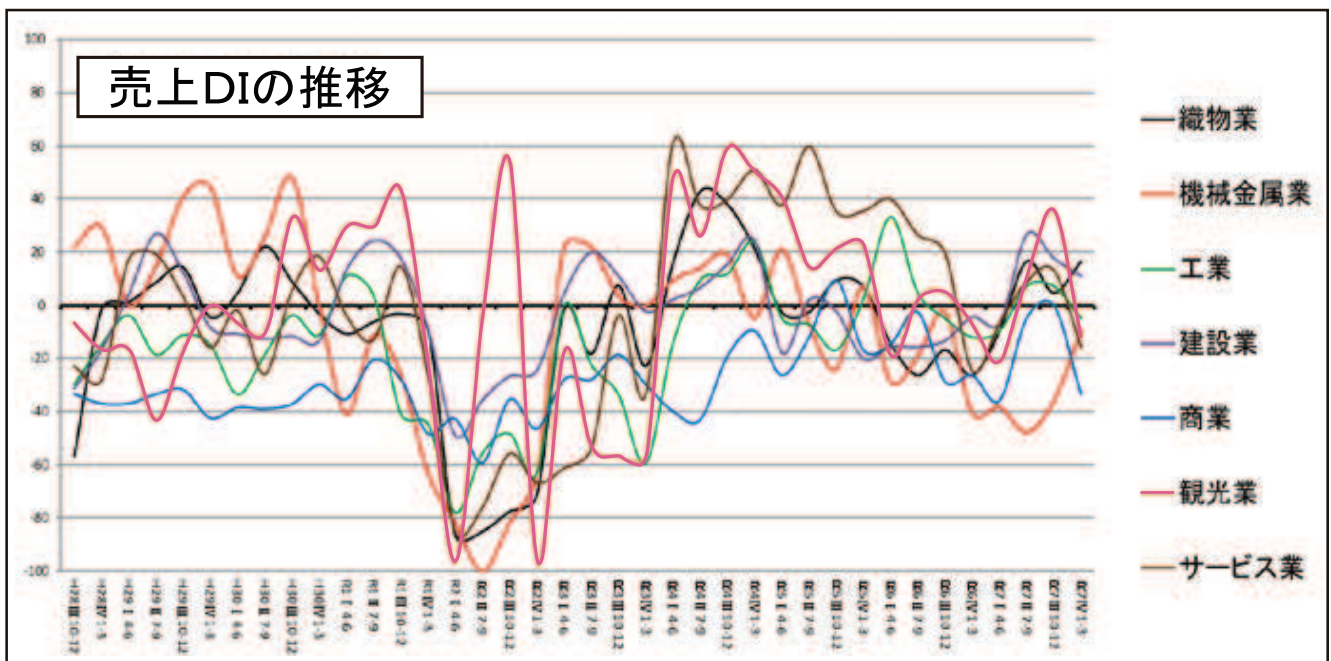
【調査期間】2026年1月～3月

【調査方法】当商工会経営支援員による巡回ヒアリングにおける調査票への選択記入式

＜産業全体＞接客関連業を中心に売上低下が見られ、製造業では先行き不透明感が高まっている市内事業者

1月～3月の市内小規模事業者経済動向調査では、長引く物価高騰に加え、冬季の大雪や最強寒波の繰り返しの影響により、接客を主とする商業・観光業・サービス業を中心に、年明け以降、売上DI値が低下している。産業全体としても、これら3業種の悪化が影響し、年末需要が追い風となった前四半期と比べて悪化がみられる。

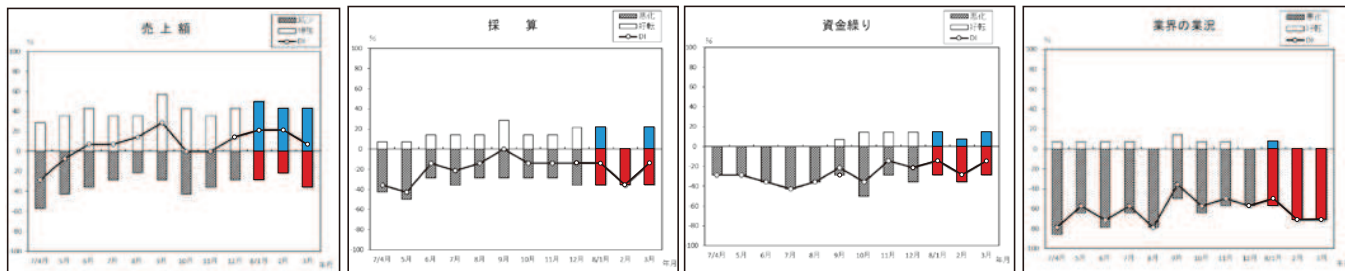
物価高や人件費上昇によるコスト増が続くなか、価格転嫁や自助努力により売上の維持・微増を確保している事業者もみられるものの、直近では海外景気の減速感や中東情勢を背景としたエネルギー価格の不安が強まっており、先行きの不透明感が増している。このため、今後もこれらのリスクの動向を注視していく必要がある。



※上記グラフは、過去の四半期毎の該当DIの平均値を算出しグラフ化したもの

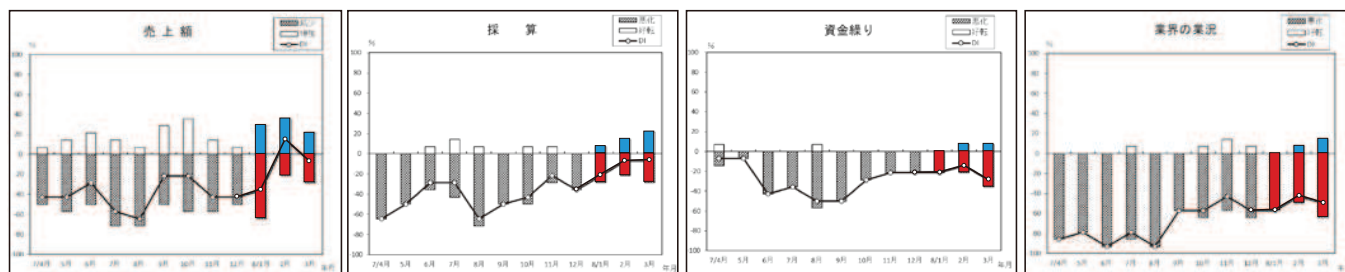
織物業 和装需要は回復基調が見られるも、コスト高や消耗品欠品の影響で受注獲得に伸び悩む織物業

織物業の1月～3月は、売上は好転したが、業況は悪化し、採算も悪化傾向で全体としては力強さを欠いている。前四半期との比較では、売上DIが+11.8ポイントと好転する一方、業況DIは悪化、採算も低下し全体では横ばいとなっている。経営支援員からは、和装需要が若干の回復基調にあり売上増となった事業所が多いが、原材料の高騰や消耗品の品薄が経営悪化に影響している。織機老朽化により、設備投資を行う傾向も一部にみられるとの報告があった。



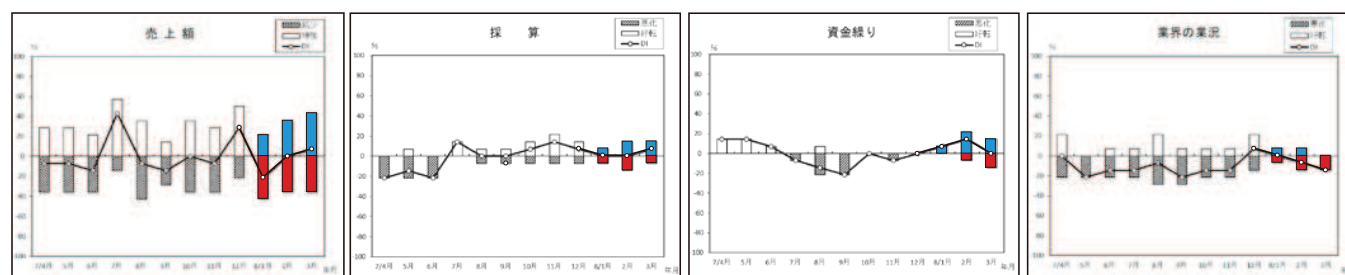
機械金属業 前四半期より増収となるも中東情勢の影響が出はじめ、今後の経営悪化が懸念される機械金属業

機械金属業の1月～3月は、売上・採算が好転し改善傾向、資金繰り・業況は横ばいで底堅く推移している。前四半期との比較では、売上DIが+26.2ポイント、採算DIも改善し好転、資金繰り・業況DIは横ばいとなっている。経営支援員からは、稼働率や採算性は上がりつつあるものの、海外景気の減速感があり、先行きの不透明感は続いていくと見込んでいる。中東情勢の影響は現況は二極化しているが、今後の経営への影響を大きく懸念する声が多いとの報告があった。



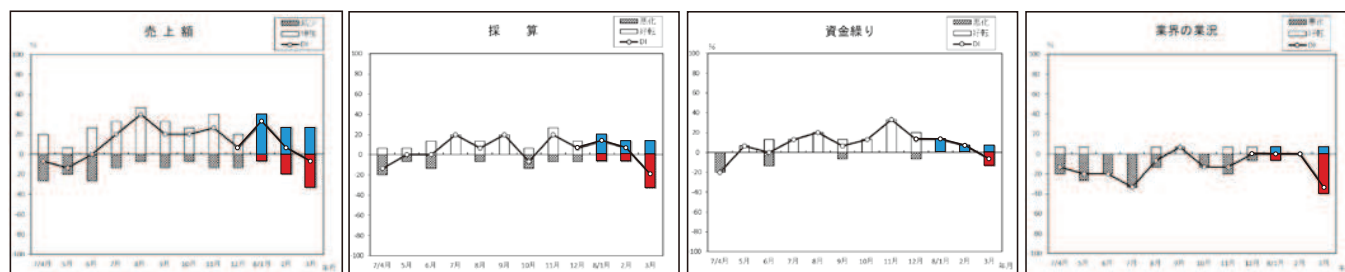
工業 価格転嫁による利益確保の動きが進むも、資材高騰や調達難で顧客からの受注対応が進みにくい工業

工業の1月～3月は、売上・採算はやや悪化も、資金繰りは好転し、業況は横ばいで総じて底堅い。前四半期との比較では、売上DIが-12.0ポイントと悪化、採算DIも低下する一方、資金繰りDIは改善し横ばい圏となっている。経営支援員からは、業界としては価格転嫁が進み、利益確保の動きが活発化しているが、十分な転嫁額には至っていない事業者が多い。中東情勢の影響により、部品や作業溶剤の調達に制限がかかり、今後の価格高騰が不安材料であるとの報告があった。



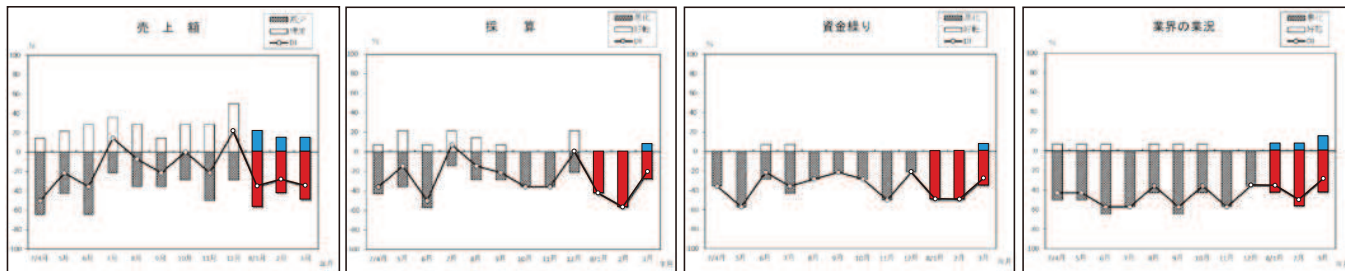
建設業 全項目が減少・悪化傾向にあり、建築資材の高騰や不足が影響し改善に課題を残している建設業

建設業の1月～3月は、資金繰りが悪化し、売上・採算もやや低下、業況も弱含みで全体に慎重な動きとなっている。前四半期との比較では、資金繰りDIが-20.0ポイントと悪化、売上・採算DIも低下し、業況DIも弱含みで厳しい。経営支援員からは、シンナー価格が5～6倍となり塗料価格も上昇、塗装工程を含む製品だと利益を圧迫される。ボードや断熱材も価格が上昇しており、在庫を確保をしたいが限度があり、当面は厳しい経営状況が続くと見込まれるとの報告があった。



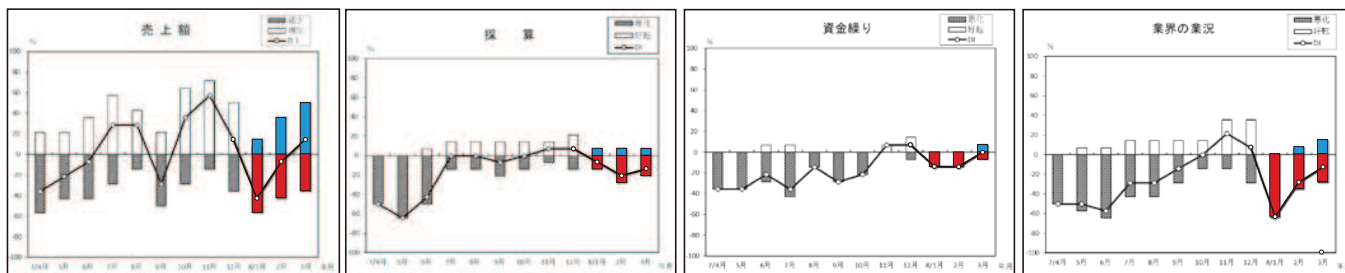
商業 メーカーの価格改定による値上げ対応で売上改善を図るも、消費者の買い控えが続いている商業

商業の1月～3月は、売上・採算・資金繰りが悪化し厳しさ増す一方、業況はやや持ち直しの動きもみられる。前四半期との比較では、売上DIが-33.3ポイント、採算DIも悪化し厳しさ増す一方、業況DIはやや持ち直した。経営支援員からは、物価高の影響で消費者の買い控えが続き、販売数量・客単価ともに厳しい状況が続いている。値上げ対応が進んだ事業者では一定の収益確保が見られるが、価格競争力に乏しい業態では収益圧迫が顕著であるとの報告があった。



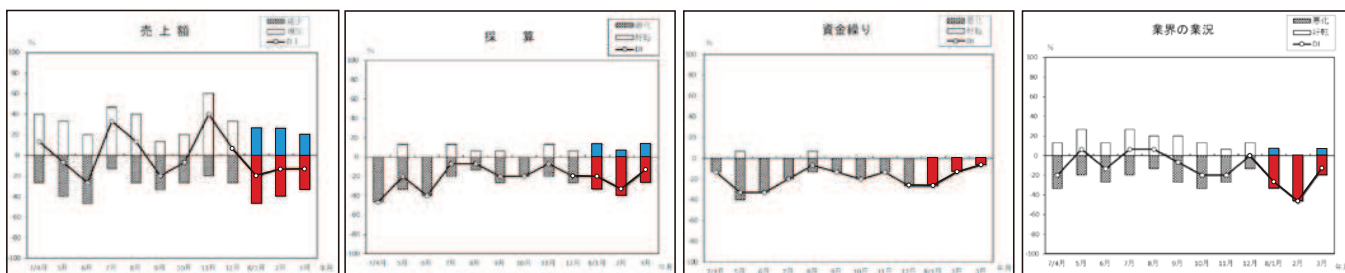
観光業 前期好調の反動が大きく、大雪の影響とあわせ人手不足が足かせとなり稼働率が停滞している観光業

観光業の1月～3月は、売上・業況が大幅に悪化し、採算・資金繰りも低下、需要減の影響が顕著である。前四半期との比較では、売上DIが-47.6ポイント、業況DIも大幅悪化、採算・資金繰りDIも低下し厳しい状況となっている。経営支援員からは、1月の週末を中心に大雪による売上機会の損失が大きかった。春に向かうにつれ売上は増加傾向となったが、外部環境による変化が主な要因であり、食材費高騰や稼働率低下の対応にも苦慮しているとの報告があった。



サービス業 大雪による臨時休業で売上が減少し、消費者の節約志向による客単価減少が続いているサービス業

サービス業の1月～3月は、売上・業況が悪化し弱含み、採算も低下する一方、資金繰りはやや改善し下支え。前四半期との比較では、売上DIが-28.8ポイント、業況DIも悪化し弱含み、採算DIも低下も資金繰りDIは改善している。経営支援員からは、降雪により公共交通や高速が止まったため市外の顧客が来丹できず、臨時休業した店舗も多く売上減。その後は顧客数が微増するも客単価が低く売上改善に至らず、今春に価格転嫁に踏み切る店舗もあるとの報告があった。



DI値とは…

DI値とは、Diffusion Index(ディフュージョン・インデックス)の略で、企業の業況感や売上額などの各種判断を指数化したものです。一般的に「変化の方向性を捉える」といった特徴を持つといわれ、各指標の数値が上昇しているのか低下しているのかを調べ、景気がどれくらい波及しているかを把握するためのものです。もともとは循環する景気の動きを計測するために、NBER(全米経済研究所)でウェスリー・C・ミッチェル(Wesley Clair Mitchell)らが1938年に開発したもので、現在でも内閣府が毎月公表している「景気動向指数」の算出などに使われています。

DIの具体的な算出方法は、各指標によって異なりますが、当会では、時系列データとして【売上】【採算】【資金繰り】【業界の業況】の4項目をヒアリングし、増加(プラス)/減少(マイナス)などの属性に分類して、その属性の個数の全系列数に占める割合などから算出しています。